

船舶事故調査報告書

平成26年4月17日

運輸安全委員会（海事専門部会）議決

委員 横山 鐵 男（部会長）

委員 庄 司 邦 昭

委員 根 本 美 奈

事故種類	衝突
発生日時	平成25年8月10日（土） 05時38分ごろ
発生場所	三重県志摩市 ^{はまし} 浜島港南東方沖 浜島港灯台から真方位121° 950m付近 （概位 北緯34° 17.2′ 東経136° 46.5′）
事故調査の経過	平成25年8月26日、本事故の調査を担当する主管調査官（横浜事務所）を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	A プレジャーボート 第八大 ^{だいしん} 伸丸、2.8トン 243-34814 三重、個人所有 9.09m (Lr) × 2.36m × 0.60m、FRP ディーゼル機関、121.40kW、昭和57年2月 B 漁船 三千 ^{みち} 丸、0.6トン ME3-63438（漁船登録番号）、個人所有 6.21m (Lr) × 1.57m × 0.63m、FRP ガソリン機関（船外機）、30kW（動力漁船登録票による）、 平成2年5月17日 第243-22234号（船舶検査済票の番号）
乗組員等に関する情報	A 船長A 男性 44歳 一級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定 免許登録日 平成8年3月19日 免許証交付日 平成22年11月8日 （平成28年3月18日まで有効） B 船長B 男性 68歳 二級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定 免許登録日 昭和56年2月25日 免許証交付日 平成25年1月29日 （平成30年2月2日まで有効）
死傷者等	A なし B なし
損傷	A 船首部外板に擦過傷 B 船首部に凹損等

<p>事故の経過</p>	<p>A船は、船長Aが1人で乗り組み、同乗者2人を乗船させ、主機を回転数毎分1,800～2,000として浜島港南東方沖を南東進中、船長Aが、操縦席に座って手動操舵で操船し、衝突の約1分～1分半前に目視でB船を前方に認め、B船が東から西へ航行してA船の船首方を通過するものと思ひ、主機の冷却水の温度が上昇したので、水温計を確認してふと船首方を見たところ、至近に迫ったB船に気付いて減速し、左舵を取ったものの、平成25年8月10日05時38分ごろA船の船首部とB船の船首部とが衝突した。</p> <p>B船は、船長Bが1人で乗り組み、浜島港南東方沖において、釣りの目的で船首を北西に向けて漂泊し、船長Bが、船体中央付近で釣りの準備を行っていたところ、A船と衝突した。</p> <p>船長Aは、本事故後、同乗者の無事及びA船の損傷状況並びに船長Bの異常の有無及びB船の損傷状況を確認し、携帯電話で本事故の発生を海上保安庁に通報した。</p> <p>A船は、B船をえい航して浜島港に入港した。</p>
<p>気象・海象</p>	<p>気象：天気 晴れ、風向 北西、風力 1、視界 良好 海象：海上 平穏 日出時刻：05時10分</p>
<p>その他の事項</p>	<p>A船及びB船は、レーダー及びGPSプロッターがなかった。</p> <p>船長Aは、A船をA船の船舶所有者から借り入れ、本事故までに約50回以上の操船経験があった。</p> <p>船長Bは、本事故発生場所付近の航行経験が約100回以上であった。</p> <p>船長A及び船長Bは、救命胴衣を着用せず、A船の同乗者2人は着用していた。</p>
<p>分析</p> <p>乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析</p>	<p>A あり、B あり A なし、B なし A なし、B なし</p> <p>A船は、浜島港南東方沖を南東進中、船長Aが、B船を認め、B船が東から西へ航行してA船の船首方を通過するものと思ひ、主機の冷却水の温度が上昇したことに気を取られていたことから、B船が至近に迫って気付き、減速し、左舵を取ったものの、B船と衝突したものと考えられる。</p> <p>B船は、浜島港南東方沖で漂泊中、船長Bが、船体中央付近で釣りの準備を行っていたことから、A船の接近に気付かず、A船と衝突したものと考えられる。</p>
<p>原因</p>	<p>本事故は、浜島港南東方沖において、A船が南東進中、B船が漂泊中、船長Aが、B船がA船の船首方を通過するものと思ひ、主機の冷却水の温度が上昇したことに気を取られ、また、船長Bが釣りの準備</p>

	を行っていたため、両船が衝突したことにより発生したものと考えられる。
参考	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 航行中、他船を認めた場合には、他船の接近状況を慎重に監視すること。・ 漂流して釣りの準備を行う際は、周囲の安全を確認した後にいき、見張りも怠らないこと。・ 救命胴衣の着用に努めること。